

どんでん館

どんでん館は犬山の最も重要な祭りを展示する施設です。祭りは1635年に始まり毎年4月に開催されます。訪問者は一年中祭りの雰囲気を経験することができます。

どんでん館には、日本が重要な有形民俗文化財に指定した13の車山のうちいくつか展示されています。それぞれの高さは8メートルを超え、重量は約5トンです。この展示では、木彫り、金箔、黒漆の装飾で職人技が表現されています。車山は、伝統的な日本の木造建築の代表的な例であり、その建設には釘が使用されていませんでした。

山車の3つの層のそれぞれには、パフォーマンスの為に特別な目的があります。最初の下層は伝統的なお囃子を演奏する場所であり、中層は江戸時代(1603~1867年)の機械人形(からくり人形)の操作者が隠れている場所です。最上層はからくり人形が生き生きとする場所です。車山は単なる娯楽用ではなく、神への奉納です。

年に一度の巡行で犬山の通りで車山を操縦するには、チームが必要です。角を方向転換することを「ドンデン」と呼ばれる。操作は肉体的な強さと巧みの両方の偉業であり、どんでん館の名前の由来となっています。

暗くなった後、車山には1年の日を表す365個のろうそくに照らされた提灯が飾られています。どんでんミュージアムは、同じ光と音楽を使って祭りの雰囲気を再現し、祭りの参加者が身に着けている華やかな衣服を展示し、祭りの映画を上映しています。

狭いフレームと高い天井を備えた建物自体は、車山が元々保管されていた伝統的な車山蔵に似ています。